

令和5年10月2日

那賀医師会 会員各位

那賀医師会

地域医療担当理事 田中 賢

## 令和5年度 第6回公立那賀病院との合同勉強会のご案内

公立那賀病院との合同勉強会を下記のとおり行います。ご多忙中とは存じますが、多数のご参加をお願い致します。

### 記

日 時：令和5年10月12日（木）午後4時から

場 所：公立那賀病院 北別館 1階講義室

演 者：公立那賀病院 外科 堀田 司 先生

演 題：「直腸癌手術の進歩：肛門温存手術」

抄 録：別紙をご参照ください。

※この勉強会は日本医師会生涯教育講座：1単位  
カリキュラムコード：（54）を申請中です。

※お手数ですが、B会員の先生方にもご案内下さいますようお願い致します。

## 別紙

抄録：

外科的肛門管近傍の超低位直腸癌では、永久人工肛門造設を伴う直腸切断術が標準手術方法になっていた。肛門管を取り巻く括約筋には内肛門括約筋と外肛門括約筋があり、癌の浸潤の有無に関わらずこれらの筋肉をすべて合併切除してきた。

1994年に Schiessel らにより外肛門括約筋を温存しつつ内肛門括約筋を切除し結腸肛門吻合を行う括約筋間直腸切除術（内肛門括約筋切除）（intersphincteric resection: ISR）が報告された。ISRの導入により、外科的肛門管近傍におよぶ直腸癌に対しても肛門温存の適応が世界的に拡大した。和歌山県下においては、和歌山県立医科大学第2外科下部消化管グループ（演者含む）によって2003年に初めてISRが導入され、2006年より適応を統一して症例を重ねてきた。

腹腔鏡下直腸癌手術の利点である狭骨盤内における良好な視野やその拡大視効果は、正確な剝離層の実現に有用であり、腹腔鏡手術はISRに適したアプローチ法である。

さらに、術前化学放射線治療の進歩により、高度進行癌で肛門温存が難しい症例であっても、術前治療奏功症例に対してはISRによる肛門温存手術が可能となった。

このように、腹腔鏡手術手技の進歩と術前化学放射線療法により、低侵襲かつ肛門機能温存の超低位直腸癌手術が可能となった。

一方、癌の根治性と排便機能温存の両立や手術の安全性を保つうえで、正しい剝離層での手術が必要不可欠であり、適応症例の選択には経験が必要であり、超低位直腸癌に対するISRに関しては専門医による治療が望ましい。

今回、ISRに関する文献的考察とともに、和歌山県下でISRが施行可能な数少ない施設として当院の今後の取り組みについても紹介する。